

# 聴覚言語障害者総合福祉施設 いこいの村

# 綾部 が好き



**一人ひとりが主人公。  
自然豊かで、人柄があたたかいのが魅力です。**

京都府北部に位置する綾部市には、(社福)京都聴覚言語障害者福祉協会の施設「いこいの村聴覚言語障害センター」(通称いこいの村)があります。いこいの村では聞こえやことばに障害のある方々の生活・就労の支援と、綾部に在住する高齢の方々の生活支援を行っています。訪れてみると、のどかな春の光のもと、仲間たちが畑仕事の真っ最中。「一人ひとりが主人公」という方針の言葉どおり、ケアする側の人も含めた「そこにいる人たち」がいきいきとしている様子が印象的です。



介護

僕らの仕事は無くなるはない！  
ずっとある



介護職員  
**岩田 祥吾さん**  
3年目

\My favorite/



自然豊かな、通勤の峠道の風景が大好き。  
人間関係もおおらかですよ。

西舞鶴市出身の岩田さんは、高校卒業後に京都聴言に就職、「いこいの村」で働くことに。きっかけは耳が聞こえにくい祖母の役に立ちたいという思いだった。「高齢化社会だから僕らの仕事はなくなるはない、と将来性を感じました」。「他の仕事に就いた友人は『仕事はして当たり前、感謝なんかされない』と話していました。それに対して、僕は生活者から『ありがとう』と言ってもらえるのがうれしいです」。



この日のお仕事

- 6:15 ● 出勤
- 朝ごはんの準備開始
- 8:30 ●
- 9:00 ● 朝ごはん終了
- 入浴介助
- 12:00 ●
- 12:45 ● 休憩
- 生活者の休憩サポート
- 15:00 ●
- 15:10 ● 退勤

障害

手話は表現豊かでおもしろい！！



この日のお仕事

- 8:00 ● 出勤
- 朝礼
- 8:20 ● 生活者のバイタルチェック
- 9:00 ● 朝の会
- 10:00 ● 屋外で畑の水やりサポート
- 11:00 ● 生活者の休憩サポート
- 11:45 ● お昼ごはん
- 13:00 ● 屋内の作業サポート
- 15:00 ● 自由時間、シーツ交換、入浴支援など
- 17:00 ●
- 17:10 ● 退勤

仕事をしながら資格がとれる  
友だち感覚で話せるのがいい

京都佛教大学福祉学部にて在籍していた徳田さんは、サークルで手話を学んだ。「仕事をしながら手話通訳士の資格を取れたらいいな」という気持ちで京都聴言へ。「介護が主な仕事になるのかなと思いきや、綾部に来てみたら障害者の支援でした。友達感覚で話せるから働きやすいです」。今日の仕事は木片にやすりをかける作業を手話でサポート。「綾部には仕事がきっかけで移住しましたが、好きですね。人が優しくてあたたかいです」

生活支援員  
**徳田 紘乃さん**  
2年目

\My favorite/

